

令和元年度 第10回広島市感染症対策協議会

令和2年2月17日

- 【日時】 令和2年2月17日（月）19:00～20:00
【場所】 広島市役所 14階第7会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、石川 暢久、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、
堂面 政俊、増田 裕久、藤本 三喜夫、長岡 義晴、松原 啓太、南 心司

1 感染症に関する最近の情報《公開》

（1）新型コロナウイルス感染症に係る対応について（資料1 P1～24）

令和元年12月に中華人民共和国湖北省武漢市において報告された新型コロナウイルス感染症は、その後各国で患者報告が相次ぎ、2月16日現在、29の国と地域で患者が報告されている。

国内においては、1月16日に初めて患者の発生が報告されて以降、2月16日までに、武漢市からのチャーター便帰国者及び横浜港に寄港したクルーズ船の乗客等を含め、414名の感染者が確認されている。

国においては、2月1日、新型コロナウイルス感染症を感染症法に基づく指定感染症（二類感染症相当）に指定する政令を施行するとともに、日本への入国申請日前14日以内に武漢市のある湖北省に滞在歴がある外国人と、同省で発行された中国のパスポートを所持する外国人を原則入国拒否することとした（2月13日より浙江省を対象地域に追加）。また、都道府県に対し、二次医療圏ごとに1か所以上「帰国者・接触者外来」（疑い患者の診察及び検体採取を行う医療機関）と、各保健所等に「帰国者・接触者相談センター」を設置するよう要請した。

本市においては、1月29日に新型コロナウイルス感染症に対する注意体制を敷き、体制の強化と庁内の情報共有を図るとともに、健康推進課及び各区の保健センターに相談窓口を設置し、感染が疑われる場合には医療機関を受診する前に速やかに相談窓口へ連絡するよう周知を図った。

また、1月30日には、衛生研究所における新型コロナウイルス感染症の検査体制を整備するとともに、2月7日には、健康推進課及び各区の保健センターに設置している相談窓口へ、感染の疑いのある人を「帰国者・接触者外来」へ誘導する機能を付加（「帰国者・接触者相談センター」を設置）した。

引き続き、市民に対して一般的な感染症対策と同様に、咳エチケットの徹底や手洗いの励行について啓発するとともに、感染が疑われる場合には、医療機関を受診する前に相談窓口へ連絡するよう周知していく。

（委員意見）

- ・ 市民に対し、感染が疑われる場合は医療機関を受診する前に保健センターの相談窓口へ連絡するよう、周知を徹底してほしい。
- ・ 市内で患者あるいは陽性者が発生した場合を視野に入れて対策を行ってほしい。特に、検査体制が衛生研究所だけでは間に合わなくなることも想定されるため、その場合の対応について検討しておいてほしい。
- ・ 引き続き、医療機関に対する情報提供にも力を入れてほしい。

(2) インフルエンザの流行状況について（資料1 P25～31）

令和2年第6週（2月3日～2月9日）の広島市感染症発生動向調査において、定点当たりのインフルエンザ患者報告数が9.16人で、前週の13.32人に比べてやや減少し、例年より早期に注意報レベル（定点当たり10人）を下回った。

流行のピークは過ぎたと考えられるが、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖は、第5週に17件、第6週に13件報告されているため、引き続き、市民に対し、手洗いや咳エチケットの励行など、感染予防対策を徹底するよう呼びかけていく。

（委員意見）

- ・ これまではインフルエンザA型の患者が多かったが、ここ最近はインフルエンザB型の患者が増えてきている。引き続き、流行状況を注視するとともに、市民に対して感染予防対策を徹底するよう呼びかけてほしい。

(3)

乾燥ヘモフィルスb型ワクチン（販売名：アクトヒブ）の一時的な供給遅延に係る対応等について（資料1 32～40）

令和元年12月、アクトヒブの添付溶剤（0.4%塩化ナトリウム液）が充填されたシリンジ容器の針に、茶褐色の錆が発生した事例が確認された。令和2年1月、アクトヒブの製造販売業者であるサノフィ株式会社より、錆の調査等に時間を要しているため、製品の供給が遅延しており、調査等が完了するまでの間、取引卸からの受注を一時的に見合わせる旨が報告された。

これを受け、厚生労働省では、令和2年1月27日、取引卸の在庫の出荷が終了した後、一時的に医療機関等への供給が難しくなる可能性があるため、医療機関に対して以下の対応を依頼した。

- ① 医療機関等においては、必要量に見合う量のワクチンを購入することを徹底し、不要なワクチンの購入を控える。
- ② ワクチンが不足し、やむを得ない場合には、可能な限り、1回目及び2回目の接種を優先する。

なお、今後の供給については、2月末頃に改めて同社より案内するとしている。

（委員意見）

今後も供給遅延が続くようであれば、定期接種としてのワクチン接種ができない乳幼児が生じる可能性があるため、その場合の対応（定期接種の期間を延長する等）を検討してほしい。

2 1月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料2、3）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病 名	令和 2 年 1 月分	令和 2 年 2 月分
		報告日 12/30～2/2	報告日 2/3～2/13 現在
2 類	結核	8 人 (結核 4 人、潜在性結核 4 人)	
3 類	腸管出血性大腸菌感染症	3 人 (1/22、1/30 (2 人))	
4 類	デング熱	1 人 (1/21)	
	レジオネラ	2 人 (1/3、1/18)	
	E 型肝炎		1 人 (2/12)
5 類	アメーバ赤痢	2 人 (1/10 (2 人))	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1 人 (1/10)	
	急性脳炎	2 人 (1/6 (2 人))	1 人 (2/10)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 人 (1/14)	3 人 (2/3 (2 人)、2/10)
	後天性免疫不全症候群	2 人 (1/15、1/30)	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 人 (1/17、1/30)	
	侵襲性肺炎球菌感染症		2 人 (2/6、2/12)
	梅毒	10 人 (1/6、1/7、1/10、1/14、1/15、 1/17、1/27 (2 人)、1/28、1/31)	6 人 (2/3 (4 人)、2/6、2/10)
	百日咳	7 人 (1/9、1/10、1/14、1/18、 1/27、1/29)	1 人 (2/10)

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和 2 年 3 月 16 日 (月) 14 階第 7 会議室

【資料】

資料 1 : 最近の感染症情報

資料 2 : 1 月の感染症の概要

資料 3 : 定点把握五類感染症 (月報対象) の長期的変動

広島市感染症対策協議会コメント（2月分）

令和2年2月17日

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、1月は3,577人で、前月比0.78とやや減少した。

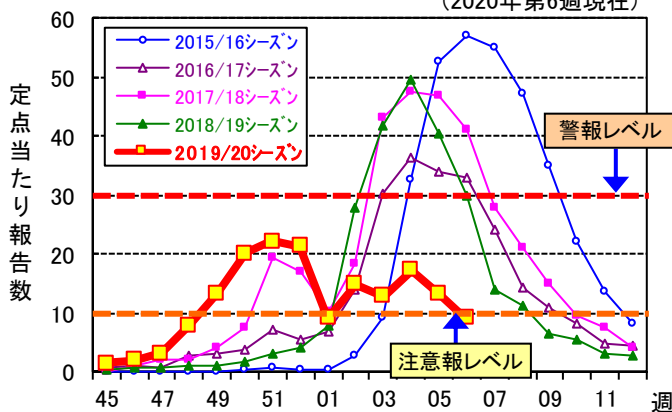
感染性胃腸炎はほぼ横ばい、インフルエンザ、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、伝染性紅斑、RSウイルス感染症はやや減少、突発性発しんは減少、手足口病は大きく減少した。

(2) 特記事項

- 新型コロナウイルス感染症は、2月14日現在、28の国と地域で患者が報告されている(感染者数：64,216人、死亡者数：1,383人)。飛沫感染や接触感染で感染すると考えられており、咳エチケットや手洗い等の感染症対策を徹底することが重要である。なお、広島県内の保健所等に新型コロナウイルス感染症に関する相談窓口が設置されており、広島市では、健康推進課、各区保健センターに相談窓口を設置している。
- 百日咳は、7～10日程度の潜伏期間を経て、カタル症状を呈して発症し、長期間続く咳嗽、連続性の咳嗽発作、吸気性の笛声等の特徴的な症状がみられる。肺炎や脳症などを合併することもあり、特に生後6か月未満の乳児は重症化するリスクが高い。百日咳の予防にはワクチン接種が有効であり、定期接種対象者は早めに接種することを推奨する。
- インフルエンザは、第6週(2月3日～2月9日)に定点当たり9.16人の報告があった。例年同時期と比べて少ないが、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は、小学校を中心に、報告が続いており、引き続き注意が必要である。また、基幹病院2か所による迅速診断キット検査結果では、今シーズンはA型が3,386人、B型が186人報告されているが(2月9日現在)、第3週(1月13日～1月19日)以降、B型の割合が増加している。なお、広島市衛生研究所による遺伝子検査では、今シーズンはインフルエンザウイルスA(H1N1)2009型が29件、インフルエンザウイルスA(H3)型が1件、B型インフルエンザウイルス(ビクトリア系統)が2件検出されている(2月2日現在)。

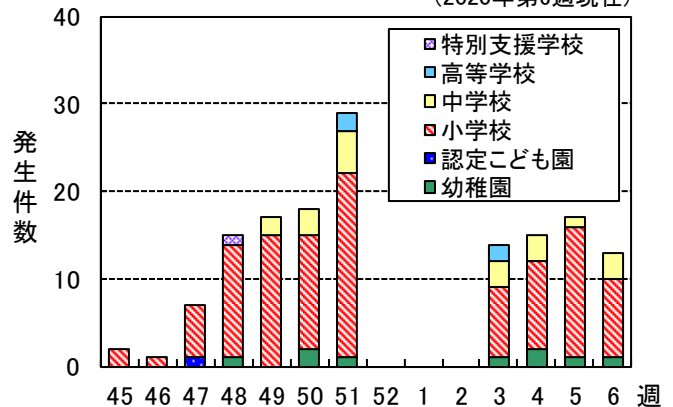
インフルエンザ定点当たり報告数

(2020年第6週現在)



インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等発生件数

(2020年第6週現在)



(3) 1月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 8件（患者：4件、潜在性結核：4件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 3件
- 4類感染症：デング熱 1件 レジオネラ症 2件
- 5類感染症：アメーバ赤痢 2件 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件
急性脳炎 2件 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件
後天性免疫不全症候群 2件 侵襲性インフルエンザ菌感染症 2件
梅毒 10件 百日咳 7件

(4) 今後の流行予測

インフルエンザ・・・【流行中】

感染性胃腸炎・・・【流行中】

2 検査情報

1月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	11 月	2 人
	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	12 月	10 人
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	A 群溶血性レンサ球菌	12 月	1 人
感染性胃腸炎	ノロウイルス GⅡ	11 月	2 人
	ノロウイルス GⅡ	12 月	1 人
水痘	水痘帯状疱疹ウイルス	12 月	1 人
突発性発しん	ヒトヘルペスウイルス 6 型	11 月	1 人
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A10 型	11 月	1 人
	*1 コクサッキーウイルス A10 型	11 月	1 人
	*1 ライノウイルス		
流行性角結膜炎	アデノウイルス 37 型	12 月	1 人
その他の呼吸器疾患（上気道炎）	インフルエンザウイルス A(H3) 型	10 月	1 人
	ライノウイルス	11 月	1 人
	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	12 月	1 人
その他の呼吸器疾患（気管支炎）	アデノウイルス 2 型	12 月	1 人
その他の呼吸器疾患（細気管支炎）	*2 アデノウイルス 3 型	12 月	1 人
	*2 ライノウイルス		
	*3 アデノウイルス 5 型	12 月	1 人
	*3 ライノウイルス		
その他の発疹性疾患（発疹症）	RS ウイルス	12 月	1 人
その他の疾患（不明熱）	エコーウイルス 30 型	11 月	1 人

*1～3：複数病原体検出例

29 人の患者から 13 種類のウイルス 31 株及び 1 種類の細菌 1 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型 13 株、ライノウイルス 4 株、ノロウイルス GⅡ3 株、コクサッキーウイルス A10 型 2 株、RS ウイルス、アデノウイルス 2 型、同 3 型、同 5 型、同 37 型、インフルエンザウイルス A(H3)型、エコーウイルス 30 型、ヒトヘルペスウイルス 6 型、水痘帯状疱疹ウイルス各 1 株であった。検出細菌の内訳は、A 群溶血性レンサ球菌 1 株であった。

5類感染症定点情報
(令和2年1月解析分)

1. 週報対象(第1週～第5週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		2,394	67.71		10	流行性耳下腺炎		5	0.20	
2	咽頭結膜熱		45	1.92		11	RSウイルス感染症		34	1.47	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		180	7.75		12	急性出血性結膜炎		1	0.13	
4	感染性胃腸炎		743	31.65		13	流行性角結膜炎		11	1.39	
5	水痘		40	1.78		14	細菌性髄膜炎		1	0.14	
6	手足口病		11	0.48		15	無菌性髄膜炎		—	—	
7	伝染性紅斑		58	2.44		16	マイコプラズマ肺炎		6	0.86	
8	突発性発しん		19	0.86		17	クラミジア肺炎		—	—	
9	ヘルパンギーナ		1	0.04		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		—	—	

2. 月報対象(1月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		48	5.33
2	性器ヘルペスウイルス感染症		19	2.11
3	尖圭コンジローマ		7	0.78
4	淋菌感染症		24	2.67
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		27	3.86
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		1	0.14
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		—	—

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和2年1月分)

第1週～第5週(12月30日～2月2日)報告分

類型	疾患名	広島市		全 国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ペスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	8	8	1,421	1,421
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	-
	16 細菌性赤痢	-	-	13	13
	17 腸管出血性大腸菌感染症	3	3	103	103
	18 腸チフス	-	-	2	2
	19 パラチフス	-	-	1	1
四類	20 E型肝炎	-	-	43	43
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	-	21	21
	23 エキノコックス症	-	-	3	3
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	1	1
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	-	-
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	-
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	-
	32 サル痘	-	-	-	-
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	1	1
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	1	1
	40 つつが虫病	-	-	53	53
	41 デング熱	1	1	20	20
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	-	3	3
	46 日本脳炎	-	-	-	-
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	-
	51 ペネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	-
	55 マラリア	-	-	5	5
	56 野兔病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	1	1
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	-
	61 レジオネラ症	2	2	130	130
	62 レプトスピラ症	-	-	1	1
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	2	2	45	45
	65 ウイルス性肝炎	-	-	13	13
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1	127	127
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	2	2
	68 急性脳炎	2	2	140	140
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	1	1
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	11	11
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	104	104
	72 後天性免疫不全症候群	2	2	75	75
	73 ジアルジア症	-	-	1	1
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	2	67	67
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	7	7
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	-	-	320	320
	77 水痘(入院例に限る。)	-	-	40	40
	78 先天性風しん症候群	-	-	1	1
	79 梅毒	10	10	460	460
	80 播種性クリプトコックス症	-	-	9	9
	81 破傷風	-	-	5	5
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	9	9
	84 百日咳	7	7	689	689
	85 風しん	-	-	33	33
	86 麻しん	-	-	4	4
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	-